

墨東病院人事異動

【退職】平成 27 年 3 月 31 日付

産婦人科部長	深田 幸仁	ふかだ ゆきひと
リウマチ膠原病科医長	高橋 央	たかはし ひろし
救命救急センター医長	亀崎 真	かめざき まこと
内科医員	大谷木正貴	おおやぎ まさき
神経科医員	小沼 寛史	おぬま ひろふみ
神経科医員	武田 真紀	たけだ まさ
外科医員	若松高太郎	わかまつ こうたろう
外科医員	谷 圭吾	たに けいご
整形外科医員	日高 亮	ひだか りょう
脳神経外科医員	清水 篤	しみず あつし
産婦人科医員	池田真理子	いけだ まりこ
救急診療科医員	照屋 陸	てるや りく
救急診療科医員	杉山 彩子	すぎやま さいこ
救命救急センター医員	阿部 裕之	あべ ひろゆき
救命救急センター医員	重城 保之	じゅうじょう やすゆき
救命救急センター医員	島田 崇史	しまだ たかし

【採用】平成 27 年 4 月 1 日付

内科医長	水谷 真之	みずたに さねゆき
内科	飯塚 泰弘	いづか やすひろ
循環器科	油井 慶晃	ゆい よしあき
小児科	吉橋 知邦	よしはし ともくに
外科	工藤 宏樹	くどう ひろき
外科	竹上 正之	たけがみ まさゆき
外科(クリニカルフェロー)	鹿股 宏之	かのまた ひろゆき
胸部心臓血管外科	小林 亜紀	こばやし あき
整形外科	長沼 英俊	ながぬま ひでとし
新生児科	設楽 佳彦	したら よしひこ
産婦人科	齋藤 悦子	さいとう えつこ
産婦人科	齋藤 大成	さいとう だいせい
産婦人科	福田奈尾子	ふくだ なおこ
救急診療科	北村友喜宏	きたむら ゆきひろ
救命救急センター	岡田 寛之	おかだ ひろゆき
救命救急センター	金子奏一朗	かねこ そういちろう
救命救急センター	西村 健	にしむら けん
救命救急センター	宮崎 紀樹	みやざき かずき
検査科	渡邊まゆ美	わたなべ まゆみ

【転入】平成 27 年 4 月 1 日付

神経科医員	長島健太郎	ながしま けんたろう
-------	-------	------------

【昇任】平成 27 年 4 月 1 日付

小児科部長	伊藤 昌弘	いとう まさひろ
胸部心臓血管外科部長	片山 康	かたやま やすし
内科医長	太田 春彦	おた はるひこ
内科医長	古本 洋平	ふるもと ようへい
循環器科医長	黒木 識敬	くろき のりひろ
小児科医長	西口 康介	にしぐち こうすけ
外科医長	那須 啓一	なす けいいち
胸部心臓血管外科医長	三島 秀樹	みしま ひでき
新生児科医長	近藤雅栄子	こんどう うたこ
救命救急センター医長	田邊 孝大	たなべ たかひろ
診療放射線科医長	高橋 正道	たかはし まさみち

【院内異動】平成 27 年 4 月 1 日付

新生児科医員	伊藤まりえ	いとう まりえ
--------	-------	---------

【兼務】平成 27 年 4 月 1 日付

内科医師	大橋 一輝	おおはし かずき
内科医師	村田 諭孝	むらた ゆたか
神経科医師	中村 亮介	なかむら りょうすけ
神経科医師	今井 淳司	いまい あつし
神経科医師	大島 健一	おおしま けんいち
神経科医師	源田 圭子	げんだ けいこ
神経科医師	岡村 泰	おかむら やすし
神経科医師	杉本 達哉	すぎもと たつや
産婦人科医師	小林 信一	こばやし しんいち
新生児科医師	吉橋 博史	よしはし ひろし
歯科口腔外科医師	田中 潤一	たなか じゅんいち
歯科口腔外科医師	伊藤 亜希	いとう あき
歯科口腔外科医師	重松 司朗	しげまつ しろう

【退職】平成 27 年 4 月 30 日付

産婦人科医員	神部友香理	かんばん ゆかり
--------	-------	----------

【採用】平成 27 年 5 月 1 日付

神経科医長	馬場 美穂	ばば みほ
脳神経外科医員	長島 良	ながしま りょう
救急診療科医員	林 史恵	はやし ふみえ
救命救急センター医員	本間 博邦	ほんま ひろくに

【退職】平成 27 年 5 月 31 日付

救命救急センター医員	木谷 尚哉	きだに なおや
------------	-------	---------

紹介予約のご案内

当院の受診は救急の場合を除き、紹介予約制を原則としています。

緊急の場合

緊急の場合は必ずご一報下さい。

- 電話予約センター TEL:03(3633)5511(直通) 受付時間 午前8:30~午後5:00
- 診療放射線科検査予約 MRI・CT検査 TEL:03(3633)6191(FAXと兼用)
RI検査・放射線治療 TEL:03(3633)6192(FAXと兼用)
受付時間 午前9:00~午後5:00
- 問い合わせ先 医事課「医療連携係」TEL:03(3633)6151(代表)内線2115
FAX:03(3633)7130
- 月~土 午前9時~午後5時
TEL:03(3633)6151(代) 当該診療科の救急当番医師
- 夜間、休日
TEL:03(3633)6151(代) ER担当
- 三次救急
TEL:03(3633)6151(代表) 救命救急センター
- 診療放射線科検査予約の用紙はホームページからダウンロードできます。

墨東病院ホームページ 医療関係者の皆様へ 医療連携のご案内 検査予約のご案内



 東京都立墨東病院

連携だより

発行 東京都立墨東病院 事務局医事課
〒130-8575 東京都墨田区江東橋4-23-15
TEL: 03-3633-6151(代表)
<http://www.bokutoh-hp.metro.tokyo.jp>

VOL. 53

看護部門から発信する医療連携

26年4月1日付で墨東病院看護部長として着任した大田敦子と申します。21年9月から24年3月まで墨東病院で勤務後、2年間多摩総合医療センターに転出し、昨年墨東病院に戻ってまいりました。

僅か2年間墨東病院を離れただけでしたが、着任して最初に感じたことは、医療連携が推進され転院や在宅への移行が早くなったということでした。長期入院の患者さんが約1割近く減少していました。

思い起こせば、平成20年、退院調整看護師長を初めて配置し、手探りで地域の医療機関の皆様との連携を始めました。医療連携室の職員と一緒に病院訪問をさせて頂き、看護師の視点での連携方法を考えるところからでした。7年が経過した現在では、入院時に患者さんをアセスメントして退院支援を開始するために、地域との連携が早期から実施できるようになりました。また、地域の訪問看護ステーションや病院の皆様と一緒に学ぶ「ローカルコミュニティ墨東」も7年目を迎えています。昨年度は墨田区協賛で、ケアマネジャーさんとの研修会を実施し「顔の見える関係作り」も徐々に広がってきています。

墨東病院はこの4月、東京都認定がん診療病院から、東京都がん診療連携拠点病院としての指定を受け、がん医療についても連携強化が求められています。平成26年度、退院調整看護師長が、地域の医療機関や訪問看護ステーション等に依頼した患者さんの76%ががんターミナル患者さんでした。当院の入院患者さんの約2割はがん患者さんであり、退院調整や看護相談が関わるケースが年々増加しています。また、外来通院患者さんからの相

談ケースも増えており、外来から地域連携が始まっています。さらに、がん診療連携手帳の活用等これまで以上の連携強化が求められています。

看護部では、がん化学療法認定看護師、がん性疼痛認定看護師、緩和ケア認定看護師を

中心にがん看護の充実に取り組み始めました。緩和ケアチーム主催の研修会や院内研修等地域の皆様と一緒に学ぶ機会を増やししながら、がん患者さんが不安なく在宅療養へ移行できるよう連携をさらに強化していきたいと思ひます。

最後に、25年から2年間かけて実施してきた、厚生労働省による小児等在宅医療連携拠点事業についてです。助産師の師長である周産期支援コーディネーターが、NICUで長期の療養を要した児を始めとした在宅医療を必要とする子供たちに、在宅において必要な医療・福祉サービスを提供できるよう、関係機関と連携しながら地域で在宅療養を支える体制の構築に取り組みできました。27年度からは東京都の事業として継続予定であり、小児在宅についても引き続き充実させていきたいと思ひます。

これからも、地域で安心して暮らせるよう、地域関係機関の皆様と協働し、双方向の連携を行ってまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



墨東病院 看護部長
大田 敦子



● 下部消化管部門医長
● 稲田健太郎

医師会の先生方には平素より大変お世話になっております。前任の志田医師の転任にともなって、墨東病院外科の下部消化管部門のチーフとなりました稲田健太郎と申します。元々、日本大学救急医学講座で救急医療に携わっていましたが、墨東病院で前任の志田医師のもとで下部消化管外科の研修をおこない、この度下部消化管部門の医長に就任しました。若輩者ではありますが、救急医療および下部消化管手術に関して全力で取り組んでおりますので、引き続き当院をお引き立てくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

このたび墨東病院は東京都の癌診療の拠点病院に認定されました。救急指定病院としての使命を果たしつつ、癌診療にたいしても専門性をもって取り組む診療体制を敷いていきます。今回は当院外科の下部消化管チームの紹介をさせていただきます。対象疾患は、大腸・肛門および小腸（空腸・回腸）の悪性・良性疾患全般です。大腸がん、GIST（小腸 GIST、直腸 GIST）、後腹膜腫瘍、腸重積などを治療しています。下部消化管チームの特徴を挙げさせていただきます。

①救急疾患への取り組みについて

墨東病院は救命救急センター設立 30 年、東京 E R 墨東を開業して 10 年、地域の救急医療の拠点となっています。そのため、下部消化管領域では大腸の穿孔やイレウス、大腸癌関連の救急疾患 (Oncological emergency) の症例が多く、都内でも有数の治療経験を誇ります。救命センターや E R と連携して迅速な対応を行っております。

②進行癌の症例への対応について

地域の特徴として、症状が進むまで病院を受診されない患者さんが多いです。そのため、他臓器への浸潤がんや同時性肝転移、肺転移など高度進行症例が多く、Stage IIIa 以上の進行癌が全体の 2/3 を占めています。

高度進行症例への豊富な治療経験と婦人科、泌尿器科、整形外科との密接な連携によって他臓器合併切除での根治手術を行っております。また、肝胆膵外科、呼吸器外科の先生方とも連携がとれており切除可能な遠隔転移症例にも積極的な手術療法を行っております。

③併存疾患を持つ患者さんへの治療について

墨東病院は総合病院として循環器科や腎臓内科、呼吸器科など診療科が充実しており、各科との連携が非常に良好であります。下部消化管領域でも肝腎機能障害や慢性呼吸不全、脊髄損傷併存の大腸癌など通常の癌専門病院や小規模病院では対応困難な重度な合併症症例を数多く経験しております。当科では、他の診療科との協力のもとに周術期管理を行い積極的な治療を行い、良好な治療成績を得ております。

④肛門機能温存への取り組みと周術期サポートについて

下部直腸癌にたいして、放射線科の先生方の協力を元に術前化学放射線療法を導入しております。根治性と肛門機能温存の両立を目指して積極的な治療を行っております。また、人工肛門造設が必要な患者さんに対しては心理的サポートと技術的サポートを行うため専門の看護師による術前面談などをおこなっております。

⑤低侵襲手術への取り組みについて

当院外科では大腸癌を年間 140-160 例の手術を行っております。近年では腹腔鏡手術を積極的に導入しており、近年では 50% 近くの症例を腹腔鏡で行っております。当院外科では内視鏡外科学会技術認定医の指導のもと、進行癌や手術歴のある患者さんに対しても豊富な治療経験があります。

⑥最新治療への貢献について

当科では最新の治療方法をいち早く取り入れ、質の高い診療体制を維持することを目標としております。そのため、大学や他の都立病院との臨床研究に積極的に参加して先進医療の開発に努めています。下部消化管領域では大腸癌研究会への参加や、がん集学的治療研究財団 (JFMC) の多施設共同試験に参加して大腸癌治療の発展に貢献しています。

墨東病院外科の成績は質量ともに大学病院や癌専門病院に勝るとも劣らないものと自負しております。東京都癌拠点病院であると同時に区東部救急医療を担う救急病院としての役割を果たしていく所存です。地域の先生方との医療機関との連携を密にして、先生方の期待にいつそう応えられる病院になるべく努力していきます。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

当科にご紹介いただく方法

当院の外来診療は通常予約制となっております。

ご紹介いただく際には、予約センターに電話をいただき予約をお取りください。

下部消化管疾患の担当の私の外来は月曜、火曜におこなっておりますが、急ぎの治療が必要な際には直接ご連絡いただければ迅速に対応させていただきます。

また緊急性がある場合は 24 時間体制で救急外来 (E R) が開いておりますので、ご紹介いただきますと、救急担当の初診後に外科疾患の場合当科で診療します。今後ともよろしくお願い申し上げます。



腎センターのご紹介

2013年末の統計調査では全国の透析患者さんの数は31.4万人、平均年齢は67.2歳となっています。透析患者さんの数は依然として増え続けており、年々高齢化しています。それにとまって維持透析患者さんが合併症で入院したり、手術などの高度な治療を必要としたりすることも多くなってきています。墨東病院の透析室は透析ベッドが8床しかありませんでしたので、年間の透析受け入れ可能件数が頭打ちになっていました。透析ベッドが満床のために透析患者さんのERへの受診や、当院への転院をお断りせざるを得ない事態がたびたび発生しており、地域の先生方と患者さんたちに多大なご迷惑をおかけしておりました。

4月からは透析室が腎センターとして移転開設されることになりました。病床数はこれまでと同じ8床でのスタートですが、将来的には20床まで増床していけるように設計をしてあります。個室は全部で4床あります。感染症対応の陰圧個室も1床設置されています。稼働ベッド数

を徐々に増やしていき、透析患者さんの急性期疾患のみならず、急性腎障害や血漿交換療法などにも幅広く対応していきたいと思っております。

また、腎センターには診察室も併設されますので、腹膜透析外来やシャント外来など透析に係わる専門外来も行っていく予定です。これまで以上に安全で快適な治療を行っていくように全力を尽くしたいと思いますので皆様のご支援のほどよろしくお願いたします。

腎センター 医長 井下 聖司



東京都医療連携手帳(5大がん、前立腺がん)の運用についてのお知らせ



当院は元々「東京都認定がん診療病院」の認定を受けていましたが、平成27年4月から「東京都がん診療連携拠点病院」に認定されました。

認定に際し、がん診療における、地域医療機関との病病連携、病診連携の協力体制を推進することが必須となっています。当院におけるがん患者さんの住居は墨田、江東、江戸川、葛飾区等で約8割を占めており、今後は、5大がん(胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がん)及び前立腺がんについての地域連携クリティカルパスを推進することが重要となります。すなわち当院がこれまで以上に地域のがんセンター的な役割を持ち、地域の医療機関が作成する「東京都医療連携手帳(5大がん、前立腺がん)」を通じて、がん患者さんを当院と地域医療機関の共同で診療する体制をより一層構築していくことが必要です。

具体的には当院で手術等を施行した後、地域の医療機関(原則紹介元)でのフォローアップをお願いし、数か月に1回当院で経過観察するというもので、連携手帳を持参して患者さんが皆様の医療機関を受診した際に、診療、検査所見を書く欄がありますので、記載していただきます。医療機関は当院にがん診療連携医療機関として登録していれば、「がん診療連携指導料」として300点/月が算定できます。

当院とがん診療の連携を登録している医療機関は150施設以上で、随時登録を受け付けており、FAXで登録できますので、詳しくはHPを見ていただくか、医療連携室にお問い合わせください。

今後益々、当院にがん患者さんを紹介していただき、当院での手術等が終わり、がん連携手帳を持った患者さんを紹介元に返送することは、患者さんにもメリットがあり、当院と地域の先生方で地域のがん診療を支えるという意味でも、ぜひ推進したい事業です。ご協力の程よろしくお願いたします。

副院長 富山 順治